

| | | | |
|-------|--|------|------|
| 授業科目名 | 空間デザイン入門 | 担当教員 | 杉山 至 |
| 必修の区分 | 選択 | | |
| 単位数 | 2単位 | | |
| 授業の方法 | 講義 | | |
| 開講年次 | 2年第1クォーター | | |
| 講義内容 | <p>舞台芸術のみならず日常から祝祭までを視野にいれた空間デザインの基礎知識を得ると共に授業内で扱うテーマについてのグループディスカッションやグループワークと授業外学習を通して、空間デザインの構想方法とデザインを通して他者とのコラボレーションの方法を習得する。</p> <p>コミュニケーションをキーワードに建築や舞台美術、グラフィックデザインやランドスケープデザイン等まで、幅広く空間デザインについての構想とその実際についてスライドレクチャーを通して学習していく。</p> <p>また、授業で扱うテーマについての授業外学習やグループワークにより、他者とのコミュニケーションを通じイメージを共有するという体験により、対話の芸術である舞台芸術の特性と魅力についても触れる。</p> | | |
| 到達目標 | <p>1空間をデザインする上で基本的なアイデアを構想できる。</p> <p>2また、空間デザインの目的、意義、役割を具体的に説明し空間デザインを通して、他者とのコラボレーションができる。</p> | | |
| 授業計画 | <p>1/・授業概要説明ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空間デザインについての簡単な個人&グループワーク <p>2/・SL1『空間とは?』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人課題 1-1『日常の空間を模型にする』 <p>3/・SL2『人はなにを見ているのか?』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人課題 1-2『日常の空間を模型にする』 ・個人課題 2『コルビジェの小さな家のトレース』 ・グループ課題 1-1『コミュニケーションと空間デザイン』 <p>4/・SL3『スケールを巡って』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人課題 1-3『日常の空間を模型にする』 ・グループ課題 1-2『コミュニケーションと空間デザイン』 <p>5/・グループ課題 1『コミュニケーションと空間デザイン』の発表と講評</p> <p>6/・SL4『日本の空間の発想 1・景と言葉の有様から』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ課題 2-1『原風景のワークショップ』 <p>7/・SL5『日本の空間の発想 2』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ課題 2-2『原風景のワークショップ』 <p>8/・グループ課題 2の発表と講評</p> <p>9/・SL『祝祭の空間デザイン 1・祝祭空間 都市とセノグラフィー』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ課題 2-1『祝祭の空間デザイン』 | | |

| | |
|----------------|---|
| | <p>10/・SL グループ課題 2-2 『祝祭の空間デザイン』</p> <p>11/・S/L 『グループ課題 2-3 『祝祭の空間デザイン』</p> <p>12/・グループ課題 2 『祝祭の空間デザイン』の発表と講評ならびに授業フィードバック、レポート提出</p> |
| 事前・事後 学習 | 授業毎に扱うテーマに沿った宿題がでる |
| テキスト | スライドレクチャーに沿った内容のテキストを各授業毎に配布 |
| 参考文献 | なにもない空間（晶文選書）、ピーター・ブルック 間(ま)・日本建築の意匠（SD選書）、神代雄一郎 |
| 成績評価 の基準 | 授業への取り組み（50%）、グループワークや個人課題でのプレゼンテーション（30%）、レポート（20%） |
| 履修上の注意 履修要件 | |
| 実践的教育 | 芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。 |
| 備考欄 | スケッチブック、筆記具等準備のこと 定員オーバーの際は抽選となる。 |